

原発対策委員会新聞

社 党 福 島 県
連 合 原 発 対 策
委 員 会

発 行 責 任 者
小 川 右 善

復興遅れ・背景に原発事故実感

宮崎市議視察団・来福

次回は福島で街頭演説

去る十月三、四日、宮崎県・宮崎市議団（中川・松田・島崎・徳重）による被災地二年半年余りを経た現状と復興状況の福島視察を行った。

視察団は、いわき市にある榊葉町災害対策本部を訪れ、表敬訪問、復興の進捗状況を聞いた。その後、仮設住宅を訪れ、被災住民との交流を深め、翌日は、汚染水で揺れ動く県漁連

の視察を行った。

宮崎市議視察団は、三、一一以降、今回で三回目、毎年訪れている。「被災県である岩手、宮城と較

帰町判断・丁寧な説明と

榊葉町対策本部視察には、榊葉町長が対応した。

榊葉町の、当面する最大の課題は、明年春に帰町の判断を計

画しており、避難住民とのコンセンサスが得られるか否か難しい局面に立たされている。

民主党は、一、原発事故収束・廃炉行程における汚染水、トラブル問題など、住民の安全確保、一、中間貯蔵施設反対、三、年間一、リシーベルト以上の除染など

べて福島復興が遅れている現実を真のあたりにし、背景に、原発事故・汚染の影響があることを実感した」と述べ、宮崎県や、九州全体に、被災地の知らざる実態を正しく伝え、次回視察で、街頭演説に立つと約束した。

社 民 党 福 島 県 連 合 は、小川代表をはじめ、いわき市議、双葉町議などが対応した。

判断条件をクリアするのあたりの丁寧な説明と納得できる施策の取り組みを要請した。

風化阻止・歓迎・全国受け入れ、派遣

今なお、全国からの視察や、派遣要請が後をたたない。風化が謳われているなかで、フクシマに寄せる関心が顕在である証しである。

- 一〇月一五～一六日、ドイツ人医師受入
- 一〇月一九日、非核シンポジウム
- 一〇月二〇～二二日、大阪労働運動研究会
- 一一月一六～一七日、長野松本市地区原水禁視察

本紹介・電料金はなぜ上がるのか

朝日新聞経済部発刊 岩波新書七二〇円
原発事故後に相次ぐ電気料金の値上げ。「原発が止まり、火力発電の燃料費が増えたから」この説

明は、本当なのだろうか。隠された

の裏に潜む問題の本質に迫る。



榊葉町は、中間貯蔵施設を巡り大きく揺れ動いている。今のところ町は設置反対の態度を示しているが、町民の不安ははかりしれない。町民の意志を確固たるものとして、断固設置反対を明確にするべきである。

- 一一月二三日、大熊町視察
- 一一月二八日、東京学習会
- 一一月二九～三〇日、鹿児島学習会
- 一二月一日～二日、全国連合社民党脱原発・脱プルトニウム全国連絡協議会合同研修



東海村の核燃料加工会社（JCO）の臨界事故から一四年が経過したことを受け「JCO臨界事故一四年集会」が、九月二九日に水戸市で行なわれた。集会では避難者からの報告として「えんどう陽子」さんが演壇に立ち、「原発事故は私たちの生活を根こそぎ壊した」とし、脱原発・廃炉のたたかいを訴えた。